カルメル
霊性センターニュース

２０１５年6月

３１０号

目次

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・１７

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

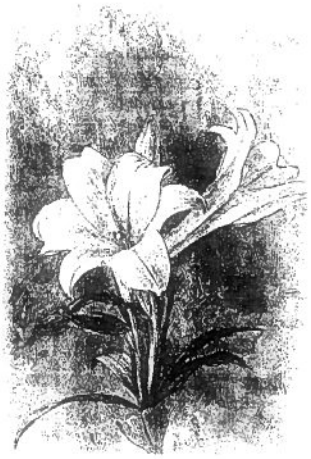
北陸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・・・３６

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７

心 の 泉



第二巻

第十章　神の恵みに感謝する

３　謙遜と賢明

私は、心の痛悔を取り去るような、慰めを求めたくない。また、高慢を培うような観想を望まない。崇高なことがことごとく聖であったり、甘美なことがことごとく善く、望むことがことごとく清く、私たちの好むものがことごとく神に喜ばれるとは限らない。私を深く謙遜にし、深く敬意を培い、自分を捨てることによりよく備えさせる恵みをこそ、喜んで私は受けたいのである。神の恵みに導かれ、その恵みを取り去られた時の苦しみを知っている人は、どんな善も自分に帰せず、ただ自分は貧しく、何も持たない人間だと告白するであろう。「神のものは神に返しなさい」（マタイ 22・21）。あなたのものはあなたが持ちなさい。受けた恵みについて神に感謝し、罪だけを自分のものとして帰しなさい。その罪のために、自分は罰を受けるべき者だと認めなさい。

４　末席で

いつも末席に自分を置きなさい。そうすれば最高の席が受けられる。最高の席は、つねに末席があればこそ存在する。神のおん目にとって、もっともすぐれた聖人たちは、自分がもっとも卑しい者だと考えた。彼らの光栄が偉大であったのと反比例して、彼らは謙遜であった。彼らは真理をもち、天の光栄を目指し、この世の空しいほまれを望まなかった。神だけに頼り、神によって支えられた彼らは、決して高ぶらなかった。そして受けた賜物をすべて神に返し、人間同士の光栄を求めず、神からの光栄だけを目指し、特に神が、自分たちと諸聖人によって、賛美されることだけを望んだ。彼らが的にするのは、以上のことだけである。

創立に向かう聖テレサ

聖テレジア生誕500年を祝って

日々神と親しく生きる　－6月－

主よ、　ごいっしょに歩みましょう。

あなたの行かれるところへなら

どこへでも　私は行きます。

～聖テレサ～

教会の典礼では復活節は終わり、年間となりました。6 月にはキリストの聖体、イエスのみ心、洗礼者聖ヨハネの誕生日、そして使徒ペトロとパウロの祝日を祝います。今月もまたテレサに導かれて神との親しさを日々深めることができますように。16 世紀スペイン、悪天候・病気などに耐えながら 17 の修道院を創立した「比類ない祈りの人」、「疲れを知らない活動家」テレサ。このような聖女は現代においても「霊的な人々の母」として私たちを導いてくださいます。

「神の子イエスが私のためにすべてを忍んでおられるなら、私が主のために忍んでいることなど、何でしょう。何をつぶやくことがあるでしょう。…主よ、私は出会う試練をみな耐え忍びたい、それらの試練を少しでもあなたにならうための大きな宝とみなしたい。ご一緒に歩みましょう。あなたの行かれるところへなら、どこへでも私は行きます。」

日々の生活には予期しない出来事があります、喜ばしいことも、悲しいことも、絶対自分に降りかかってきてほしくない事柄も・・・「なぜ、私に？」「なぜ、今？」。受け入れがたい試練をどのように生きましょうか。イエスもこの世ではさまざまの試練にであい、それを「私のために」忍んでくださったとテレサは言います。世の終わりまでご聖体のうちに私たちと「共にいる」ことを望まれたキリストは今日もまた私と共に耐え忍んでくださいます。それこそがイエスのみ心の「鼓動」。多忙な日々、退屈な日々、私たちそれぞれが日々を生きるときイエスの心の深みの鼓動を聞きましょう。それは私たちと共にいつもいてくださるイエスの心の「愛の鼓動」です。

伊従　信子（いより　のぶこ）
ノートルダム・ド・ヴィ

人を赦す（20）

九里（くのり）　彰

クレール・リは、十字架上のキリストは、「彼らを赦します」とは言わなかった。ただ「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」と言っただけだとし、娘と共に、御父に向かい、「父よ、ご覧の通り、私たちはか弱い女です。クメール・ルージュを赦すことができませんが、彼らをあなたのみ手にゆだねます」と言ったという。

この御父への祈りを、私たちは、どのように解釈すべきなのだろうか。彼女は自分を十字架上のキリストと同一視、キリストが自分を十字架につけた人々を赦していないように、彼らを赦すことはできないが、父なる神の手にゆだねると言っている。

十字架につけられたキリストは確かに何の罪もないのに死刑に処せられた。クレール・リも何も悪いことをしていないのに家族や家財産すべてを奪われた。絶望的な状況の中で、やり場のない悲しみと怒りに日々苛まれたことだろう。キリストも受難を前に、ゲッセマネの園で苦しみ悶えた。「わたしは死ぬばかりに悲しい」（マコ 14・34）と。

しかし、キリストは、この十字架の死へ自らおもむいたという点で、彼女とは大きく異なる。降ってわいた災難ではなく、避けようと思えば、いくらでも避けることができた受難・死だったからである。「アッバ父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように」（同 14・36）。

そのような意味で、「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」という十字架上のキリストの言葉は、クレール・リのように、自分は彼らを赦せないが、御父は彼らを赦すようにと嘆願しているのではない。キリストは、言うなれば、初めから自分を十字架につける人々を赦しながら、十字架に上げられ、彼らの罪の赦しを御父に願っているのである。それは、ちょうど十二使徒が自分を見捨てるのをあらかじめ知っていながら、彼らを赦していたのに似ている。

イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたは皆わたしにつまずく。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊は散ってしまう』と書いてあるからだ」（マコ 14・27）。

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（92）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

胡椒の粒

今、引用したばかりであるが（先月号の記事）、人のよいコバルビアスは。胡椒という言葉の説明で、こう言っている。「人々は、非常に生き生きとし、鋭い人を、胡椒と呼んでいる」と。

このこぼれ話は、セゴビアの女子カルメル会の面会室で広がったものです。姉妹たちは、聖人（訳注：十字架の聖ヨハネのこと）が彼女たちに語り、伝えていたその確固たる教え、力強い言葉、神への愛をほめちぎっていました。管区長代理のドーリア神父は、その時、有名な名言を吐きました。「十字架のヨハネ修父の非常に高尚で、非常に聖なる言葉は、神の愛に耳を傾けている人の愛情を刺激し、ひりひりさせる**胡椒のようなもの**だ」と。

キリストのイサベルは、少し違った形で、つまり、十字架のヨハネ修父が同席していた時、起きたこととして、この対話を報告しています。ドーリア神父は、「十字架のヨハネ修父は、胡椒の粒のようなものです」と言いました。この言葉によって、管区長代理は、「（ヨハネ神父の）著作や言葉の完全さと、それらが神の愛の内にどれほど燃え上ったものであるか」を示そうとしたと断言しています。

もしかしたら、イタリア人であったドーリア神父は、「鋭く生き生きした人間のことを胡椒と言う」ということを、よく理解していなかったかもしれません。でも、イタリア語でも実際、”uomo tutto pepe”、すなわち「すべて胡椒の人」と、同じことが言われていることを付け加えねばなりません。その意味は、活発で元気のよい鋭い人のことです。

したがって、それは、まさに十字架のヨハネのことでした。

「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。『取りなさい。これはわたしの体である』。・・・『これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である』」（ﾏﾙｺ 14,22.24）。

「過ぎ越しの食事」への言及は、「最後の晩餐」の史実の報告を超えて、旧約の神とイスラエルの民の歴史における「契約」のより広大な文脈に、わたしたちを、招き入れます。旧約での契約の中核となるものは、モーセを仲介者とするシナイ契約、いけにえの動物の血が、神を象徴する臨在の場とエジプトの奴隷状態から解放された人々の上に注がれることで締結された、古い契約の民を生み出すものです。「見よ、これは主がこれらの言葉に基づいてあなたたちと結ばれた契約の血である」（出ｴｼﾞﾌﾟﾄ24,8）。もう一つの重要な契約が、旧約の預言書の中にはあります。「見よ、わたしがイスラレルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る。・・・わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる」（参照ｴﾚﾐﾔ31,31 - 34）。この新しい契約がどのようにして締結されるかは、詳細には述べられてはいません。しかし、イザヤの「苦しむ主の僕」の歌を参照すると、見えてくるのは、「わたしはあなたたちとともしえの契約を結ぶ」（ｲｻﾞﾔ 54,3）、この契約は、動物の血を流すことによってではなく、苦しむ「主の僕」の血を流すことによってであると理解できます。そして、その展望は、人種、文化、時間を超越した新しい神の民、生み出して行くべきものは、過去に根ざしたものではなく、未来に向けて創造されて行くべき人類共同体、あまりにもキリスト教的かもしれないのですが、別の言い方で言えば、「キリストの体」であるのです。

今日の福音で注目したいもう一つの点は、キリストの体と血が別々に述べられていることです。からだと血を別にすることによって強調されるのは、イエスが「いけにえ」である次元、しかも、暴力的な死によるものであることを示し、また、死の局面に留まることなく、イエスの生涯が全面的な献げ物、しかも、暴力的なものによる圧殺であることを表現します。ナザレの方、イエスは、その全存在が他者のために生きることであり、生命を失うまでに完全に自分自身を消耗することは、人類のための神の愛を徹底的に示すことを意味すると分かっていたのです。　　ルカ　渡辺幹夫

年間第１１主日（B）

みことばのひびき

（マルコ4：26～34）

神は私たちの父で、私たちそれぞれのために計画をたてて、よい父親がそうであるように私たちのため理想を夢みます。神は私たちを選んだ民とされ、たくさんの恵みを注がれます。本日の福音で私たちは神の王国の成長に関する二つの譬えを読みます。神は王国がゆっくり成長することを農夫たちが経験する種と植物のイメージを使って示します。神の王国に属することは召し出しであり、神は私たちを神の力のもとに、十分に、意識的に、慎重におくために、その力を経験し、権能を与えるために呼ばれます。

イエスの譬え話は、パレスチナの人々の日常生活や農夫、漁師、羊飼い、主婦からとられています。本日の二つの譬えは日常の農業の経験からとられています。神が築く王国は、他人から注目されることもなく、反乱や戦争、叫び声、騒ぎはなく、静かに育ち、進歩します。小さなものから始まり、育ち、空の鳥（地上の人間を示す）が食べ物を得たり、守られたりするために群がります。この王国は人を全体的に保護し、主がその民のために持っている関心や理解を示します。

イエスの教会の神的起源の証拠の一つは、そのつつましい始まりからの成長です。神ですから、キリストは違った方法でこの世に来ることもできました。何の妨げもなく、人の助けもなく、全世界に説教することもできました。特別すごい奇跡を通して世界を変えることもできました。弟子としてふつうの漁師や、取税人などではなく、光輝く人を選ぶこともできました。その代わりに、神はこの世に小さな赤ちゃんとして、貧しい母親と大工の養い親の息子として来られました。馬小屋で生まれ、敵から身を護るために異教徒のエジプトに隠れ、無名の村に貧しさのうちに３０年住み、厳しい仕事で日々の暮らしをたてました。生涯の終わりの３年間、教えたり、癒したりしながら、疲れ、おなかをすかし、足を痛めながら、救いのよい知らせを説いて、パレスチナ中をまわりました。民のために命をなげうつ時が来たとき、敵にイエスを捕えさせ、十字架刑にさせました。十字架の上では王であることを宣言しましたが、鞭うたれ、押し潰され、十字架にかけられました。地上と時代をつなぐ架け橋となる王国にとって、たしかにつつましい始まりでした。小さいからし種は、神のご計画によるものとして、まったく成功しました。異教の世界をキリストに導いたのは使徒たちの雄弁でもなく、説得力の才能でもなく、学識でもありませんでした。変化と変容をもたらしたのは、聖霊の恵みと福音の真実の目標でありました。

本日、神の言葉を考え、神の呼びかけに応答するとき、私たちはからし種の謙虚さと小ささを思い出します。この王国の成長に貢献するためにイエスの近くに行きましょう。

（*Sr. Paulina*）

「この方はどなたなのだろう。風も湖さえも従うではないか」（ﾏﾙｺ 4－41）。

「種を蒔く人」のたとえ話を中心とする「たとえ話」での論述に直結して、今日の福音書の個所が始まっています。「その日の夕方になって」。そして、この個所は、キリストの権能のしるし、奇跡の新しいシリーズを開き、この一連の奇跡は、大変印象深いクレッシェンドで加速されて進行して行きます。イエスは、嵐の海を鎮める、悪霊に取り付かれた人を癒す、医者の手に負えない病気の婦人に救いをもたらす、そして、死んだばかりの少女を起き上がらせる、そして、一連のイエスの奇跡は、この少女の蘇生で頂点を向えることになります。嵐の湖の鎮めで始まった、「この方はどなたなのだろう」とのイエスのアイデンティティについて弟子たちの人間としての理解力には把握できない秘儀を前にする疑問も、ヤイロの娘の蘇生で頂点に達するわけです。イエスが始める新しさとこの新しさを前にする人間の驚き、それは、喜びと共に、困惑、恐怖をも引き起こすものですが。

今、一つ注目すべきイエスの言葉が、今日の福音の箇所を開いていました。「向こう岸に渡ろう」（ﾏﾙｺ 4,35）。イエスの過ぎ越し、十字架の死の此岸から復活の栄光の彼岸への通過を連想させる言葉です。「弟子たちは、・・・イエスを舟に乗せたまま漕ぎだした」。その渡海の途中で、激しい突風が起こり、波をかぶって、水浸しになる。弟子たちは、あわてふためき、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と、舟の中で眠っておられるイエスを起して窮状を訴えます。確かに、この此岸から彼岸への渡海は、大嵐に襲われることも起こりうるのです、いやむしろ、ある意味で、それは必然だ、と言えるのです。人間が自分で計算、予測できる危険なら、敢えて挑戦しないで済ませるかもしれません。大嵐にもてあそばれている、この事実の渦中にいると気付く時、なぜ自分がそのような危険に遭遇しているのか、を思い起こしてみたいのです。イエスの「向こう岸に渡ろう」との招きの言葉に従って行動しているからなのでしょうか。自己中心的な生き方から福音的な生き方への移行、すべての人たちと共に生きる、兄弟的な社会の建設のために生きるところに自己実現を発見している生き方に向けて解放されて行く歩みを前進しているからなのでしょうか。いつも共にいてくださるイエスは、「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか」とのお言葉で、イエスの後に過ぎ越しの道を歩んでいるわたしたちを励ましてくださるのです。　　ルカ　渡辺幹夫

年　間　第　十　三　主　日　（マルコ５：21―43）

信仰の実りがどんなに素晴らしいものであるか、また信仰が日常生活の中でいかに必要であるかということ、これが今日の福音の主なテーマです。信仰はわたしたちから神への個人的な私的な応答です。その神は常に人間にご自分を現し続け、その聖性と美しさを認識してほしいと働きかけておられます。聖書はこの神の思いをいろいろな場面でわたしたちに示しています。この世の様々の状況は、病気や死に直面したときの人間の無力さと、これとは対照的に信仰のもたらす驚くべき力強さを示しています。わたしたちは偉大な神との絶え間ない関わりの中に生きています。神は病を癒し、痛みを取り除き、これを喜びに一変させてくださる方です。信仰は奇跡を生みます。どれほど沢山の小さな奇跡が気づかないまま起っているでしょうか。しかし合理主義のこの世に在っては、奇跡の素晴らしさを認める霊的な洞察力を持つ必要があります。そのための信仰は小さな種のようなものです。人間の心に植え付けられてから実を結ぶまでには長い時間がかかります。

福音は神の癒しをテーマにした二つの話から成り立っています。一つの話の間にもう一つの話がサンドイッチのように挿入されているマルコ独特の書き方です。二つの話は並行して述べられています；病気の娘を癒してくださるようにイエスに嘆願する会堂長のヤイロの話の間にもう一つの話、深い信仰を持ってイエスに近づき、長い間苦しんでいた病を癒していただいた女の人の話が挿入されています。最後に再び会堂長の娘が死の床から生き返らせていただく奇跡を告げ終わっています。イエスが行われたこの二つの癒しの奇跡はわたしたちにイエスを信じるということの真の姿を教えています。

この奇跡をいただくためには会堂長のヤイロも女の人も信仰によって人間的な恐れや不安を克服しなければなりませんでした。癒しをもたらしたのはどちらの場合も信仰です。これは単なる癒しの奇跡の話ではありません。この話をより深く掘り下げてみると、癒していただいた会堂長の娘と女の人はイエスから新しい生命をいただき、復活したということです。癒された女の人は何の支障もなく社会生活が出来るようになるでしょうし、小さな女の子は死から生き返らせていただき両親のもとに戻ってきたのです。女の子の手をとって起き上がらせてくださるイエスには復活の余韻があります。実際にこの二人は新しい生命の豊かさの中で生きるのです。信仰のもたらす素晴らしさについての大事な教えです。

今日の福音は聖なる神の力とイエスの限りない憐れみについて語っています。イエスが約束されたメシアであると言わなくても、イエスの行われた奇跡はどれも人間の痛みや苦しみを取り除くためのものでした。驚かすためまた人の好奇心を満たすためのものは一つもありません。全ては困っている人々を助けるためのものでした。イエスの憐れみの奇跡によって助けていただいた人たちは共通して一つ姿に変えられていきます。彼らはイエスへの信仰を深めることによってやる気を出し、ますますイエスの憐れみとその力に信頼して生きる者となりました。

(Sr. Paulina)

「見たいものが見えるとするなら・・」　　石原淳子

「人には、見たいものを見ることのできる力があるものだともいう。見たいものが見えるとするなら、いまの自分には何が見えるのだろう・・」

この文を目にしたとき、私は何か自分への深遠な問いかけに思えました。しかもこの問いには、底知れぬ寂寥を感じさせるものを潜めているようで、心深深として引き込まれ、独りたたずむ思いがしたのです。

最近始まったばかりの新聞の連載小説です。

乾いた孤愁というのでしょうか、ハードボイルドの雰囲気漂うなかなかのもので、毎日わくわくして読んでいるのですが、その冒頭の場面にこの一節がありました。

病気のためにやむなく現役を退いたボクサーである主人公が、フロリダ州キーウエストに来ていて、突端にある元灯台の展望スペースから海の彼方キューバの方角を眺める場面です。　展望スペースには先客がいます。一組の老夫婦が長時間寄り添って身動きもせず水平線の彼方を見つめているのです。　もやがかすんで何も見えないのに何を見ているのだろうと彼は思います。　しかし、はたと気づくのです。　いやもしかしたら彼らには見えるものがあったのではないか、何も見えない水平線の向こうに、確かに見えていたものが彼らにはあったのだと。　　ここに先の文章が置かれます。　　老夫婦が去った後に彼も展望スペースに立ち、同じようにしてもやにかすんだ水平線の彼方へと目をこらします。　すると突然に灰色の影のようなものが現れるのです。　しばらくすれば当然何もない海の果てです。

何を見たのだろう、キューバの島影か、いやもしかしたらあれは日本ではないのか、日本列島なのか。　　アメリカに来て40年、一度も帰らなかった日本を見たのかと、愕然とするというドラマチックな小説の幕開けです。　　小説は始まったばかりで行く手は全くわからないのですが、現在主人公は実に日本に帰ってきていて古巣のジムを訪ねています。　女性の姿も現れたりです。　今後が大いに楽しみというところです。

「人には、見たいものを見ることのできる力があるものだともいう。見たいものが見えるとするなら、いまの自分には何が見えるのだろう・・」

あらためてこの言葉を前にして考えあぐね、思いあぐね、探しあぐねます。

（こういうときの私は、宿題を貰った子どものように、また、ヤコブのペニエルの組打ちのように、大真面目に不恰好に取っ組み合ってしまうのです）

人には見たいものを見ることのできる力があるのだといっても、それはあれが見たいこれが見たいと自分の方から意識して、よし見ようではないかというようなことではないでしょう。　できる力とはいえ、こちらから主体的、能動的に発揮できるものではないように思います。　　目に映るものはまぎれもなく自分の内の予期ではあるのでしょうが、しかし、確かなその幻影は全く予期しなかったものとして、どこか遠くから贈り物のように授けられるのではないかと思うのです。　　それと、どう云ったらよいのでしょうか。水平線の彼方に目をこらす者は、深い傷心が必須であるのだと思います。　　見たいものを授かってしまうほどに、自分の深い傷心と向き合わざるを得ない歳月があったはずなのです。　遠くからの不意の贈り物とは、楽しげに弾んでやってくるものではなく、どこか愛に似て、苦しみを引き受ける決死の魂に寄り、あたかも思い余ったかのようにして筆舌に尽くしがたい切なるうめきをもって授けられるのではないかと、深く思いは到ります。

更に思い募らせれば、私たちの感覚器官と精神、霊の底深い領域はきっとどこか連動しているので、自分では届くことのない深奥に授かった贈り物は、ときに表層に浮かび視覚に及んで、つかの間、実在の映像となるのでしょうか。

いつか私にも水平線の彼方に目をこらす日があるのなら、忽然と授けられるいまの自分に見える何ものかを、驚愕して見てみたいです。

なぜこの言葉に惹かれたのか、なぜ出会ったのか、これからも私は深く問われながら、日常の日々生活のただ中で、子どもっぽい取っ組み合いをヤコブにあやかって続けることでしょう。

この言葉をもたらした小説、沢木耕太郎著「春に散る」を読む明日を、心楽しく待ちながら。

いのちの言葉　6月

マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。
しかし、必要なことはただ一つだけである。

（ルカ１０・４１－４２）

「マルタ、マルタ」と呼びかけるイエスの声には、どれほどの愛情が込められていたことでしょう。エルサレム近郊にあるベタニアの家に、イエスは休息をとるため弟子たちと一緒に時折立ち寄られました。周辺の町では、イエスを拒む者や反対者と議論が必要なことも度々でしたが、ベタニアの家では歓迎され、安らぎがありました。

マルタは、とても機転のきく活発な人でした。兄弟ラザロの死に際しても、イエスと深い言葉を交わし、彼に質問を投げかける姿からも、彼女がしっかりとした、信仰の厚い女性だと分かります。「わたしは復活であり、いのちである。このことを信じるか」というイエスの問いかけに、マルタはためらいなく「はい、主よ」と答えます（ヨハネ１１・２５－２７参照）。

今回もマルタは、先生とお弟子さんたちにふさわしいもてなしをしたいと思い、準備に追われています。「マルタ」とは「主（あるじ）」という意味ですが、その名のとおり家の「主」である彼女は、その責任を感じ、夕食の準備をしていたのでしょう。一方、姉妹のマリアは、マルタを一人残し、まな弟子のようにイエスの足元でその話に聞き入っていました。これに苛立ちを覚えたマルタは、「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください」（ルカ１０・４０）と言います。これに対しイエスは、愛情を込めて、しかしはっきりとこう言われます。

マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。

むろん、マルタが寛大な心で準備してくれる料理や数々のもてなしを、イエスは喜んで受け取られたに違いありません。この話の後に出てくるさまざまなたとえ話を見ても、それが分かります。イエスは、自分の才能や富を上手に生かせる管理人や、商売人、僕たちを賞賛され、（ルカ１２・４２、１９・１２－２６）抜け目なく器用であることも褒めています（ルカ１６・１－８）。それなら、これほど積極的に、惜しみなく、行き届いたもてなしのできる女性をたのもしく思わないはずがないでしょう。

イエスが咎めておられるのは、マルタの働き方の中に見られる「せわしさ」と「思い煩い」です。マルタは「いろいろのもてなしのためにせわしく立ち働き」（ルカ１０・４０）、心を乱しています。もはや彼女が仕事を取り仕切るのではなく、仕事に支配されて振り回され、自由はなくなり、仕事の奴隷になっています。

時々、私たちもたくさんのことをしながら、大事なことを見失っていないでしょ

うか。身を入れてすべきだと分かっていても、インターネットや、チャット、ＳＭＳなどに気を取られて注意散漫になり、周囲への配慮を怠ったり、近くの人の話に耳を傾けるのを忘れたりします。一番危険なのは、何のために仕事をし、誰のためにやっているのかなど、肝心なことを忘れて、仕事や、やっていること自体が究極の目的になってしまうことです。

また、家庭、経済、学校、仕事、将来などで難しい問題があると、心配で心がいっぱいになり、イエスの次の言葉を忘れてしまうこともあります。「だから『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである」（マタイ６・３１－３２）。イエスは、そんな私たちにもこうおっしゃるでしょう。

マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。

では、「ただ一つ必要なこと」とは何でしょうか。それは、イエスの言葉に耳を傾け、生きることです。イエスの言葉、またイエスご自身を脇に置いて何かすることはできません。マリアのように、他の全てを忘れ、主の足元でひと言も逃さずにみ言葉に耳を傾けることです。そして、目立ちたい、優れた者でありたいなどの思いではなく、主に喜んでいただき、み国の役に立つ者になりたいという思いに導かれることです。

マルタのように、私たちも人の役に立つ「多くのこと」をするように招かれています。私たちが「豊かに実を結ぶ」ことを御父は喜ばれ（ヨハネ１５・８参照）、そして、私たちは、彼以上に大きな業を行うことになるとイエスは教えてくださいました（ヨハネ１４・１２参照）。

ですから、私たちが任された仕事を一生懸命に、工夫をこらし、積極的に行うことをイエスは願っておられます。ただし、せわしく心を騒がせながらではなく、神様のみ旨を果たしているという認識から生まれる平和を保ちながら行うことです。

「ただ一つ必要なこと」、それは、イエスの弟子となり、心の内にイエスを生かし、毎瞬間、私たちを導くイエスの小さな声によく耳を傾けることです。そうすれば、イエスご自身が、私たちの行動一つ一つを導いてくださるでしょう。

たとえ「多くのこと」をするにしても、私たちはせわしく立ち働くことがなくなります。イエスの言葉に従うなら、その行いはすべて愛から生まれるものになるからです。何をするにしても、私たちはただ一つのことだけを行うようになります。それは、「愛すること」です。

ファビオ・チャルディ神父

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先：フォコラーレ
03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
ホームページ:フォコラーレで検索
http://focolare.world.coocan.jp/

ヘンリ・ナーウェンの
旅路の糧（188）

前々回で「旅路の糧」の訳は終了しました。以下はナーウエンの巻頭言です。

この本を書こうとした時の逸話（2）

私は、美術館の無地のノートをもっと買うことによって、この不安を克服しようとしました。これらのノートが書くのを助けてくれることを期待しながら。それから、毎朝、私は考えがあろうがなかろうが、座ることにしました。そして、私のペンが動き出し、私の頭や心から言葉を引き出してくれるまで待ちました。イエスについて書こうとは思ってもいませんでした。私は、このノートがイエスの精神をもって書かれるべきだとは感じていましたが、イエスの名前が躓きの石となっている人々を疎外すべきではないとも感じていました。私はすべての人を満足させたかったのです。けれども、私のペンは、私の考えとは違った仕方で働きました。一般的なテーマについて一冊の空白のノートを一杯にした後、私は、私の信仰の中心であるイエスについて書いている自分を見出しました。そしてその時、驚いたことに私は、私たちはどのようにイエスと結びつくのだろうかと、自問していました。間もなく私は、み言葉と秘跡について書いている自分を見出しました。けれどもそれらはどこにあるのでしょうか。教会の中においてです。私は以前、一度も教会について書いたことはありませんでした。それは、話すには安全でないテーマのように思われましたが、私はここで、自分自身の恐れや理解を突破しました。疑問が生じました。「私たちを導くと思われている教会はどこにあるのか」。「死や復活、聖徒の交わり、天国と地獄、キリストの再臨、時の終わりなどは、どういうことなのか」。私は、これらのことをすべて考えながら震えました。けれども私のペンは、言いました。「恐れてはならない。あなたのノートは、あなたがそれらについて考えたことを聞くのを楽しみにしている」と。そこで私は、どんどん書きました。12 月が来るまでに、一年は 365 日か 366 日しかないのに、私は 387 の考察を書き上げました。私がすべてを読み返し始めた時、私は、この一年の本を、私の信仰を表現するために、また私自身の信仰宣言を書くために使ったのだと気づきました。

このすばやい私の信仰の吐露があった後、ゆっくりとした仕事がたくさんなされねばなりませんでした。四人の人々がそれを手伝ってくれました。私の秘書であるキャスイ・クリスティは、ワープロにこれらの言葉を、何百もの変更や修正を加えながら、すべて打ち込むために、多くの日々を費やしました。

九里　彰訳

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
・CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO・

<< **Communications**（時事通信）>> 2015年3月9日

教皇フランシスコから跣足カルメル修道会総長へのメッセージ（２）

カルメル山の聖なるおとめマリアの跣足修道会総長
　ザベリオ・カニストラ神父様

前号からの続きです。

今日の奉献生活を刷新するために、聖テレジアは、祈るための具体的な提案や道筋や方法論に満ちた宝を私たちに残してくれました。それらは、自分に閉じこもることでも、単に心のバランスを保つ小道を探すことでもまったくなく、常にイエスを出発点として何度でも再出発するよう私たちを促します。それは、神と隣人への愛の成長という真の学び舎です。

２．イエス・キリストとの出会いの結果、聖テレジアは“新しい生活”を生きました（『自叙伝』23.1）。教会に奉仕することを望み、その時代の重大な問題の視点に立ち、聖女は、単に自分をとりまく現実の観察に留まりませんでした。女性としての立場から、また健康状態の限界の中で、聖女は「私は、自分のできるわずかばかりのことをしようと決心したのです。それは、私として出来るかぎり完全に福音の勧告を実行すること、またここにいる幾人かの修道女にもそうさせてあげること。」（『完徳の道』1.2）と述べています。こうして聖女は、テレジア的改革を開始し、「世はまるで火事のようである」時、「くだらないことを神様にお願いして」時間を浪費すべきでないと、修道女たちに懇願しています（『完徳の道』1.5）。この宣教的かつ教会的な次元は、常に跣足カルメル修道会を特徴づけてきました。

聖女が当時行なったように、今日も私たちのために新しい地平線を開き、キリストのまなざしで世界を見、キリストが求めることを求め、キリストが愛することを愛するために、私たちを偉大な試みへと招いています。

３．聖テレジアは、祈りも宣教も本物の共同体なしには、決してあり得ないことを知っていました。この理由のために、聖女が創立した修道院の基礎は兄弟愛であり、そこでは「すべての者がみな仲の良い友であり、愛し合い、慕い合い、助けあわなければならない」（『完徳の道』4.7）のです。聖女は、兄弟的な生活において自己中心的となる危険を修道女たちに警告しています。それは、「すべては、自分自身と自分の

安楽を気にするのをやめ」（『完徳の道』12.2）、自分自身を全面的に他者への奉仕にゆだねることにかかっているからです。この危険を避けるために、アビラの聖女は、とりわけ謙遜の徳を実行するよう、姉妹たちに勧めています。それは、外面的に卑下することでも、内面的に霊魂を委縮することでもなく、各々が自分のできることと神がその人の内でなさることを知ることです（『霊的勧告』30参照）。

その反対は、他者との関係を損なう噂話や嫉妬や誹謗の源となる「情けない名誉心」（『自叙伝』31.23）です。聖テレジアの謙遜は、自己受容、自己の尊厳の意識、宣教の勇気、感謝、神における自己放棄といったものから成り立っています。これらの高貴な源から、テレジア的共同体は、分裂と戦争で引き裂かれている私たちの世界の必要性を主に提示しながら、兄弟愛と母なる教会を証しする一致の家となるよう招かれているのです。

親愛なる兄弟よ、御父が特別な優しさをもって、カルメル山の聖母のご保護にゆだねられたテレジア的カルメル会に、また教会が直面する大きな挑戦と脅威に、祈りをもって同伴してくれているテレジア的カルメル会に、感謝を表さずにこの手紙を終わることはできません。私は、主のご生涯の模範が、聖テレジアの模範のように、福音を生きる喜びと美しさの光を透して、キリストに従っていくように、多くの若者を招かれるよう主に願っています。

私は、ここに聖テレジアのすべての家族に使徒的祝福を与えます。

2015年3月28日　バチカンより

カルメル会の企画案内

上野毛霊性センター　～2016年３月

黙想企画　＊＊　上野毛聖テレジア修道院（黙想）　＊＊

１．日帰り一日黙想会　　１３時３０分（※１０時）～１６時

[聖人たちを支えた神のことば]　　福田正範神父

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」（啓示憲章６章２５）信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

２０１５年

６／１９（金）、６／２５（木）、７／１０（金）、７／２３（木）、９／３（木）、９／１８（金）、１０／３０（金）、１１／５（木）、１１／２０（金）、１２／３（木）、１２／１８（金）

２０１６年

１／１５（金）、１／２８（木）、２／１２（金）、２／２５（木）、３／１１（金）

＊申し込みは、３か月前より受付致します。

※企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。
午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前１０時～ご利用が可能です。

２．奉献生活者のための黙想会

８月　１日（土）１８時～　８月１０日（月）朝　　福田正範神父
８月１２日（水）１８時～　８月２１日（金）朝　　福田正範神父
１０月１３日（火）１８時～１０月２２日（木）朝　　福田正範神父
１２月２７日（日）１８時～２０１６年１月５日（火）朝　　福田正範神父

３．青年黙想会(男女)　　福田正範神父・カルメル会士

１１月１３日（金）１６時～１５日（日）１６時

４．召命黙想会(男女)

９月２５日（金）１６時～２７日（日）１６時

５．特別黙想会　伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

５月２９日(金)２０時～３１日(日)１６時「わたしは神をみたい」
１１月　６日(金)２０時～　８日(日)１６時「いのりの道」

６．祭日のミサに参加するために

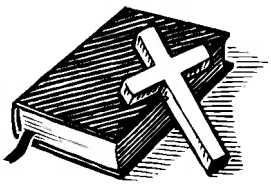
【クリスマス】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時
２０１５年１２月２４日(木)～２５日(金) 朝食《講話なし、夕食なし》

【聖週間】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。
２０１６年　３月２４日(木)夕食～２７日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

New！男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



電話でのお問い合わせは午前 9 時から午後 4 時 45 分までにお願い致します。
間違いを避けるためなるべく、FAX・はがき・Ｅメールで連絡して頂ければ幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25　聖テレジア修道院（黙想）
TEL　03―5706―7355　／　FAX　03―3704―1789
E-mail：mokusou@carmel-monastery.jp

＊＊＊＊＊＊日帰り黙想会＊＊＊＊＊＊

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。
「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章６章２５)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように･･･。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父

＊企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。
午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前１０時～ご利用が可能です。
昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。
費用：午後からのご参加・・・・￥２０００、午前からのご参加・・・・￥３５００

日時：６月１９日（金）　　午後１時３０分～午後４時

６月２５日（木）　　〃

７月１０日（金）　　〃

７月２３日（木）　　〃

お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
〒１５８－００９３　東京都世田谷区上野毛　２－１４－２５
ＴＥＬ．０３－５７０６－７３５５
ＦＡＸ．０３－３７０４－１７８９
Ｅメール：mokusou@carmel-monastery.jp

「カルメル」
今日の霊性・春号
四旬節講話特集号

カルメル 2014 特集号

2015 春 No.356

「イエスの聖テレジアの
カリスマとその広がり」

● 目次 ●

イエスの聖テレジアのカリスマと後代への影響　渡辺幹夫　2
二人のテレジア
――アビラのテレサとリジューのテレーズ　伊従信子　20
テレジアと出会った十字架のヨハネ　九里彰　33
テレジア的カルメルの中の三位一体のエリザベト　松田浩一　46
エディット・シュタインとテレジア
――出会いと霊的絆　須沢かおり　55

○ 目次 ○

《今年の特集　聖テレジアと奉献生活》

修道生活の改革 (1)
――アビラの聖テレジアの理想　九里彰　3
イエスの聖テレサと跣足カルメル修道会についての一考察 (2)　松田浩一　9
エディット・シュタインに見る「学び」と「祈り」　須沢かおり　15
風に吹かれて (3)
――不純のすすめ　原造　22
聖性への招き　十字架の聖ヨハネに導かれて (10)
――夜と暁のはざまで　マリーエウジェンヌ　編・訳　伊従信子　24
歴代教皇の寸描 (1)
――教皇の国際性　高橋重幸　31
西行と芭蕉の霊性 (7)
――『御裳濯河歌合』の心の世界　田畑邦治　37
愛を探しつづけて　森みさ　44
神が慈しまれた道 (5)　奥村一郎　50

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）定価は、一冊４６０円です。

● 送付ご希望の方は、６００円【内訳　４６０円（＋送料１４０円）】を下記へお振込み下さい。

● まとめてご購入希望の方は、年会費（年５冊：春夏秋冬号・特集号【４６０円×５＝２，３００円】＋ 送料【７００円】計　３，０００円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：００１９０－４－１９５４５７　跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。
ＴＥＬ（０３）５７０６－８３５６

2015年～2016年　黙　想　会　案　内　　（宇治カルメル会）

【一般のための黙想】　・１泊２日　　（午後5時～午後4時）

2015年

	9月 5日(土)～6日(日)	イエスと友情を生きる「聖テレジアに学びながら」	中川博道　神父
	11月28日(土)～29日(日)	日常生活の中でイエスと共に生きる	中川博道　神父
2016年	1月9日(土)～10日(日)	私が洗礼を受けたこと	中川博道　神父

【聖書深読黙想会】

・１日　　（午前10時～午後4時）

2015年

	6月13日(土)	渡辺幹夫神父	10月10日(土)	渡辺幹夫神父
	7月１１日(土)	中川博道神父	11月14日(土)	中川博道神父
			12月12日(土)	渡辺幹夫神父
2016年	1月9日(土)	中川博道神父	2月13日(土)	渡辺幹夫神父
	3月12日(土)	渡辺幹夫神父		

・水曜の黙想　　（午前10時～午後4時）

2015年

	6月 17日(水)	教会の中に生きる聖テレジア	渡辺幹夫　神父
	7月15日(水)	マリアと共にイエスを信じ愛する道	中川博道　神父
	9月16日(水)	キリスト教の霊性	松田浩一　神父
	10月14日(水)	聖テレジアの過ぎ越し	渡辺幹夫　神父
	11月18日(水)	観想と活動	松田浩一　神父
	12月16日(水)	人となられた神にともなわれて	中川博道　神父
2016年	1月20日(水)	主の慈しみは、新たになる	渡辺幹夫　神父
	2月24日(水)	生きていることの見直し	中川博道　神父
	3月16日(水)	キリストの過ぎ越	松田浩一　神父

・四旬節の黙想　　（午後5時～午後4時）

2016年　3月5日(土)～6日(日)　　中川博道　神父

・待降節の黙想　　（午後5時～午後4時）

2015年　12月13日(土)～12月14日(日)　　松田浩一　神父

・聖テレーズの黙想　（午後5時～午後4時）

2015年　9月30日（水）～10月1日（木）　　伊従信子師

カルメル青年の集い　　（午後5時～午後４時）

2015年　11月22日(日)～11月23日(月)　　松田浩一神父

【一般のためのカルメルの霊性入門】　　（午後5時～午前４時）

2015年

10月14(火)～10月15日(水)　　イエスのテレサ生誕500年閉会式　　松田浩一神父

奉献生活者の黙想　午後5時～午前9時

2015年	7月31日(金)～8月9日(日)	中川博道　神父
	8月21日(金)～8月30日(日)	松田浩一神父
	12月27日(日)～1月5日(火)	松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】　チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１:30

12月24日（木）～12月25日（金）　　[講話なし、各食事つき]

―その他皆さまが企画なさったグループ黙想会, 個人黙想も歓迎いたします。―

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前９時～午後５時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人（働いている人）のための霊的同伴』
―日常のキリスト教霊性を求めて―

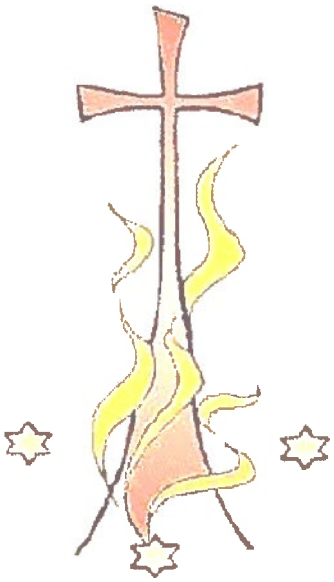
日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴（スピリチュアル・コーチング）**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点（**霊的理解**）を促進しますので、この静かな一時の中で短い**個別同伴**（一人 30 分）を行います。
- メソードの一つとして**スピリチュアル・コーチング**を適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】　　6 名

【開催日】　2015年　1月30日（金）～31日（土）
2月13日（金）～14日（土）
3月 6日（金）～ 7日（土）
5月 1日（金）～ 2日（土）
5月13日（金）～14日（土）
~~6月19日（金）～20日（土）~~
6月26日（金）～27日（土）変更
7月24日（金）～25日（土）
9月 4日（金）～ 5日（土）
10月 2日（金）～ 3日（土）
11月 6日（金）～ 7日（土）
12月 4日（金）～ 5日（土）



（毎回金曜日　20 時（夕食なし）～土曜日 15 時）

【参加費】　各回 6，500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父（カルメル会士）

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院（黙想）へ FAX、はがき、E メールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39－12
カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）
Tel　0774－32－7016、Fax　0774－32－7457
E-Mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

霊性センター

毎月第一日曜日　三馬教会　聖堂

１４：３０～講話

１５：３０～ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日　三馬教会　聖堂

１３：３０～聖書朗読　短い講話

１４：３０～ベネディクション　聖体顕示

１５：３０～聖体拝領

１６：００～サルヴェ　レジナ　終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921－8162

金沢市三馬３丁目324番地

カルメル会　三馬修道院

三上　和久神父まで

Tel　076－244－7788

聖書深読センターのご案内

１　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
２　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち１箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

１　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。
講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。
費用：６ヶ月２０,３６０円（４、７、10、１月に納入）　継続の場合は１９,１３０円
講師：九里彰師（奇数月）　今泉健師（偶数月）
問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル
私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座課
電話 03-3344-2527（直通）

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局　Ｓｒローザにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
所長：九里彰神父　　事務局長：今泉健神父　　連絡先：Ｓｒローザ
ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内

心のいほり　内観黙想センター
真命山　霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、 開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。 電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572－0001 大阪府寝屋川市成田東町3－27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2015年予定

M1 2/7（土）-2/13（金）宝塚売布・女子御受難会
N1 2/23（月）-3/1（日）滋賀唐崎・ノートルダム
K2 3/14（土）-3/20（金）東京・小金井・聖霊会
N2 4/30（木）-5/6（水）滋賀唐崎・ノートルダム
K3 6/12（金）-6/14（日）東京・小金井・聖霊会 ２泊３日
T1 7/20（月）-7/26（日）兵庫西宮・トラピスチヌ
K4 9/19（土）-9/25（金）東京・小金井・聖霊会
N3 10/27（火）-11/2（月）滋賀唐崎・ノートルダム
T2 11/17（火）-11/23（月）兵庫西宮・トラピスチヌ
K5 12/12（土）-12/18（金）東京・小金井・聖霊会

真命山　2015年 － 祈りの集いのご案内

祈りの集い（午前 10 時～午後 3 時）

年間のテーマ

「イエス、マリア、ヨセフが祈られた詩編」

1 月　8 日　「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」（ルカ 2,14）詩篇 1. 34. 117. 19. 150

2 月 12 日　「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい（マルコ 1,15）詩編　51. 21

3 月 12 日　過越祭のハレルの詩編：113.117.136

4 月　9 日　復活祭の詩編：2.110.118

5 月 14 日　詩編 45.89（ルカ 2,46-55）

6 月 11 日　詩編 145.146.148

7 月　9 日　詩編 126.130

8 月　休み

9 月 10 日　詩編 23

10 月　8 日　詩編 42

11 月 12 日　詩編 137.147.150

12 月 10 日　詩編　来られる主を迎えて：72.96（ルカ 1,68）

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）
ダニエレ　サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア　デ・ジョウルジ

申し込み先
865－0133
熊本県玉名郡和水町1391－7
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
TEL　0968－85－3100
Fax　0968－85－3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp
www.shinmeizan.org
個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内　２０１５年～２０１６年

●キリスト教入門講座
金曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
●キリスト教理解講座
毎月第1・第3・第5火曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。
●土曜アカデミー　以下（予定）の土曜日、9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラムの詳細は別途公表。
夏学期: 6/6, 6/13, 6/27, 7/11, 7/25, 9/5, 9/12, 9/19
冬学期: 10/10, 10/17, 10/24, 10/31, 11/7, 11/14, 11/21, 12/5, 12/19,
2016年 1/9, 1/16, 1/23, 1/30, 2/6
●上智大学公開講座春期　2015年度
〈上智大学中世思想研究所企画〉
実践哲学の基礎づけ　－古代・中世・ルネサンスを通じて－
曜日・時間 指定水曜日：19:00～20:30
講師名：リーゼンフーバー，　クラウス
テキスト：『西洋古代・中世哲学史』リーゼンフーバー，クラウス著（平凡社）
問合せ先：上智大学 03-3238-3552
日程 / カリキュラム
06/03、06/10、06/17、06/24、07/01、07/08、07/15
詳細は以下のサイト等より御願い致します。
http://imdthght-sophia.sakura.ne.jp/?news=上智大学公開学習センターでの当研究所企画講座
●ミサ
水曜日 17時10分－18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全休。12月30日は休み。

●黙想
・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分－20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、4月28日、8月11日、12月22日は休み。8月25日は、クルトゥルハイム聖堂
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分－12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月4日は休み。
・「水曜日ミサ後の黙想」18時－18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
どなたでも。但し祝日、8月全休、12月30日は休み。
・「通う霊操」8月22日(土)－8月30日(日)18時－20時45分上智大学内クルトゥルハイム聖堂
・「黙想会」
7月4日(土)10時－5日(日)14時(上石神井)、
11月28日(土)10時－29日(日)14時(上石神井)。1泊2日。7、000円程度。事前申込み要。
[関西]9月26日(土)13時30分－27日(日)15時(宝塚市)。
●祈りの集い
・下記の土曜日 13時30分－16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
6月6日、7月11日、8月8日、9月5日、10月10日、11月7日、12月5日、2016年1月9日、2月13日、3月5日
・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分－16時50分
●坐禅会
・月曜日、木曜日　17時45分－20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。但し祝日、4月27、30日、7月30日、8月全体、11月2日、12月24、28、31日、2016年3月24日は休み。
●坐禅接心
6月19日(金)20時20分－21日(日)8時30分
8月8日(土)20時20分－15日(土)8時30分
9月19日(土)20時20分－22日(火)8時30分
10月31日(土)20時20分－11月3日(火)8時30分
秋川神冥窟。1泊2、400円(+暖房費)程度。事前申込み要。
[関西]5月9日(土)13時30分－10日(日)15時、7月30日(木)17時45分－8月5日(水)15時。
●アガペ会
下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時－18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
6月27日(土)、2016年1月24日(日)。
10月25日(日)、会員未加入の方にもオープンの集い。13時30分から。岐部ホール4階、404。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座　2015年
日時　毎週金曜日
　　18時45分～20時30分

6/5　祈りによる神理解－神の偉大さと近さ
6/12　救い主の役割－人類の待望
6/19　神の国－イエスの告げるメッセージ
6/26　イエスの生き方－神に遣わされて人に仕える
7/3　イエスのたとえ話－神の働きを語る
7/4-5　●黙想会(上石神井)
7/10　イエスの人間関係－罪人と弟子と共に
7/17　イエスは誰か－イエスの自己理解
7/24　最後の晩餐－自分を与えるイエス
7/25　◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2階、80人限定)
7/31　○休み

夏季
08/07　イエスの受難－その史実と意図(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/14　○休み
08/21　イエスの死－その救済的意義(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/22-30 ●通う霊操(18時-20時45分)（上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/28　聖書のイエス像― ヨハネとパウロの見たイエス(上智大学内クルトゥルハイム2階)
09/04　イエスの復活― 今に生きるイエス
09/11　聖霊― 神の愛に導かれる
09/18　祈りの本質とさまざまな祈り方― 神と関わる
09/25　洗礼と堅信― イエスに結ばれて生きる
10/02　教会の成立と意味― イエスを中心に集う
10/03-04　●黙想会(東村山)
10/09　人間としてのイエス― 新しい人間像の基礎づけ
10/16　御子としてのイエス― イエスの神との関係

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座　2015年
日時　　第1・3・5火曜日
　　18時45分～20時30分

［人生の基礎づけ］
6/2　創造・歴史・救い――イエスという中心
［倫理的行為］
6/16　行為の規範――人間らしさと神の呼びかけ
6/30　自己実現――責任と自由
7/4-5　●黙想会（上石神井）
7/7　性格の形成――自己受容と善への憧れ
7/21　人間の弱さ――罪とゆるし
7/25　■感謝のミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2F、80人限定）
8/4　○休み
08/18　有意義に生きる基盤――信仰と希望（上智大学内クルトゥルハイム2F)
08/22-8/30 ●通う霊操(18時－20時45分)(上智大学内クルトゥルハイム2F)
［根本的態度］
09/01　唯一の掟―愛による完成
09/15　基本的な徳――判断力・勇気・節制
09/29　共同存在――共通善・正義・奉仕
10/3-4　●黙想会(東村山)
10/06　個人の道――自己の課題と聖霊の導き
10/20　対人関係と友愛――恵みである他者
11/17　身体と生命――性と倫理
11/28-29　●黙想会(上石神井)
［日常生活］
12/01　家庭と独身生活――与えられた招きの発見
《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）
信徒会館3階
アルペホール　TEL　03・3263・4584
クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102－8571　千代田区紀尾井町7－1
上智大学SJハウス
電話　03－3238－5124（直通）　－5111（伝言）
Fax　03－3238－5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、
キリスト者としての霊性を養うための
講話と沈黙の祈りで構成された集いです

東京

６月２０日（土）「いつくしみの愛」
７月１８日(土)「平凡なナザレの生活」
８月　休み

午後２時　～　午後５時３０分位まで
講話・祈り・質問・分かち合い
講話　　伊従信子
****
参加費　　２００円

お申し込み・問い合わせ：ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.com

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

京都

変更

6月１３日(土)、7月4日(土)　１３時半～１５時　京都ＮＤＶ　担当：伊従信子
『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』聖母の騎士聖母文庫
三位一体のエリザベット：神の現存

6月9日(火)、7月7日(火)　１３時半～１５時半　河原町カトリック会館３階
＊『いのりの道をゆく』　担当：伊従信子
＊　祈り：「都の聖母」聖堂にて　１５～１５時半

６月20日（土）、７月18日（土）13時半～15時　京都ＮＤＶ　担当：中山真里
主日の福音の分かち合い

京都ＮＤＶ　お問い合わせ　ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒603-8378 京都府京都市北区衣笠御所ノ内町４
TEL・FAX(０７５－４６２－３５２５)
email　：　ndvmari@hotmail..com

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所 在 地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3－1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-ﾒｰﾙ： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交 通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日 程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17 時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

① 2015 年 4月29日（水）～ 5月 7日（木）
② 8月14日（金）～ 8月22日（土）
③ 10月26日（月）～ 11月 3日（火）
④ 12月27日（日）～ 2016 年1月 4日（月）

B. 祈りの体験：週末3日間 （金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

① 2015 年 2月 6日（金）～ 2月8日（日）
② 2月 27 日（金）～ 3月1日（日）
③ 3月 20 日（金）～ 3月 22 日（日）
④ 6月 19 日（金） ～ 6月 21 日（日）
⑤ 7月 17 日（金）～ 7月 19 日（日）
⑥ 9月 18 日（金）～ 9月 20 日（日）
⑦ 11 月 27 日（金）～11 月 29 日（日）

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2015 年 5月 25 日（月）～ 6月2日（火） 澤田豊成 師 （ﾊﾟｳﾛ会）

◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、 ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10 日前までに申し込んでください。 先着順 11 名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やｸﾞﾙｰﾌﾟ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。 （但し、上記の日程と 8 月 1 日～8 月 9 日を除きます。）

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。　http://sadhana.jesuits.or.jp/

★申込み受付・・開始日の８日前で締切ります

コース	日時＜指導者＞	指導者	開催場所	申込み
入門Ｃ	7/5(日) 9:30-17:00	Fr植栗	同上	若山美知子※ Tel&Fax 03-5802-3844
サダナⅠ	7/17(金)17:30- 7/20(日)16:00	Fr植栗	カンディダ.マリア.ハウス・イエズス孝女会 (葉山町)	同上
サダナⅠ	9/4(金)18:00- :9/6(日)17:00	Fr.マルコ・アントニオ Fr植栗	聖ドミニコ女子修道院(仙台市青葉区) ※申込み:(郵送またはFAX) 〒仙台市宮城野区東仙台6-8-25 オタワ愛徳修道院　Sr内原わさ FAX022-293-3675 ※開催場所と申込み先が異なります。	
フォローアップ	9/13(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
サダナⅡ	9/19(土)17:30- 9/23(水)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会・町田黙想の家(町田市)	同上
入門A	9/27(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
自己を知る *1泊2日×2=合計4日	10/3(土)9:30- 4(日)17:00 10/11(日)9:30- 10/12(月)17:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院 (小金井市)	同上

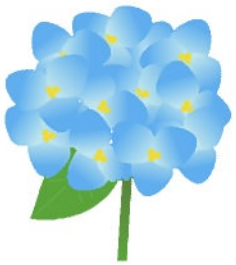
※不在の場合は、渡辺由子　　Tel&Fax ： 042-325-7554

◆サダナⅠ（入門Ａ．Ｂ．Ｃ）＝体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナⅡ＝Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ＝サダナⅠを終えた方。

◆入門Ｃ＝入門Ａまたは入門Ｂを終えた方。



祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室　１４：００～１６：００
　　１２月のみマリア聖堂（ミサ有り）

6月11日（木）『霊魂の城』第六の住居・第十章
7月9日（木）、 9月10日（木）
11月12日（木）、12月10日（木）

アビラの聖テレジアの「霊魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

霊性センターニュース

＊年間購読（郵送）のご案内＊

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から 12 月までとなります。
例：6 月申込の場合は、7 月号～12 月号（但し 8 月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250 円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等をご記入の上、
郵送か下記の e-mail でお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院　「霊性センター事務局」

《e-mail でのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。
＊何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。
Tel: ０３－３７０４－２１７１　Fax: ０３－３７０４－１７８９

New！男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００１１０－４－２９７２５０
加入者名：　カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

今年の三月、消滅寸前であった上方落語を再興し、人間国宝ともなった落語家桂米朝師匠が亡くなられた。88 歳であった。埋もれていたネタを掘り起し、高座にあげた数は、140 余。学究肌で、芸能一般に通じた知識人であったとのことである。

その著書『落語と私』の最後は、師匠の桂米團治の次の言葉で閉じられているとのことである。

「芸人は、米一粒、釘一本もよう作らんくせに、酒が良いの悪いのと言うて、好きな芸をやって一生を送るもんやさかいに、むさぼってはいかん。ねうちは世間がきめてくれる。ただ一生懸命に芸をみがく以外に、世間へのお返しの道はない。」

一芸にひいでると、こんなに立派な言葉を遺すのかと、感心した。

さて、すべてを捨ててキリストに従っているはずの司祭、修道者はいかがなものか。

（P.九里）

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。
作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。
初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「７月号」製本日　　６月３０日(火)　上野毛教会信徒会館ホール１階
午後１時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL　03・3704・2171